

4 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は174人であった。定点当たり報告患者総数4.24は前年(1.98)と比較して大きく増加した。報告は年間を通して断続的に観察され、5月と12月に増加した。定点当たり報告数の最大値は、第52週(12/23-29)の0.38であった。年齢階級別では、10歳未満が最も多かった。

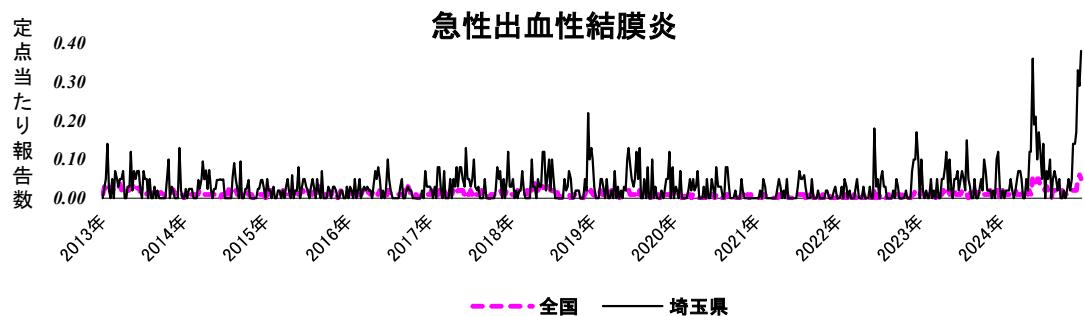


図 II-13-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：急性出血性結膜炎)

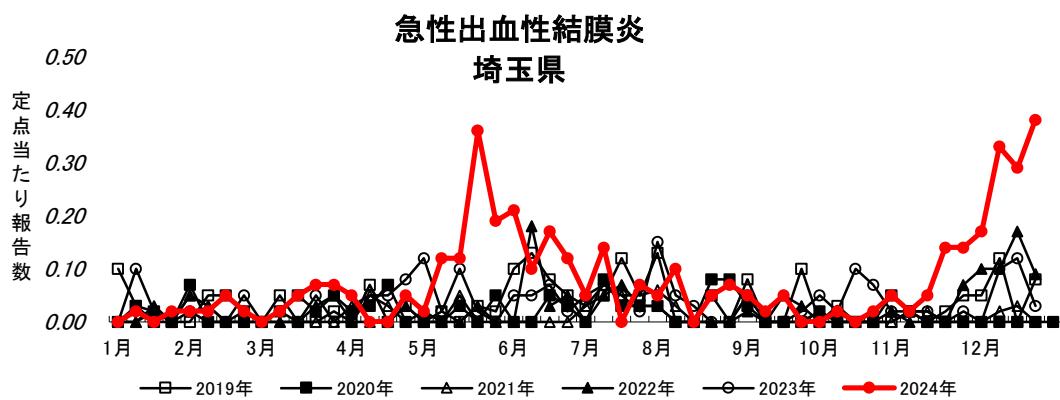


図 II-13-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：急性出血性結膜炎)

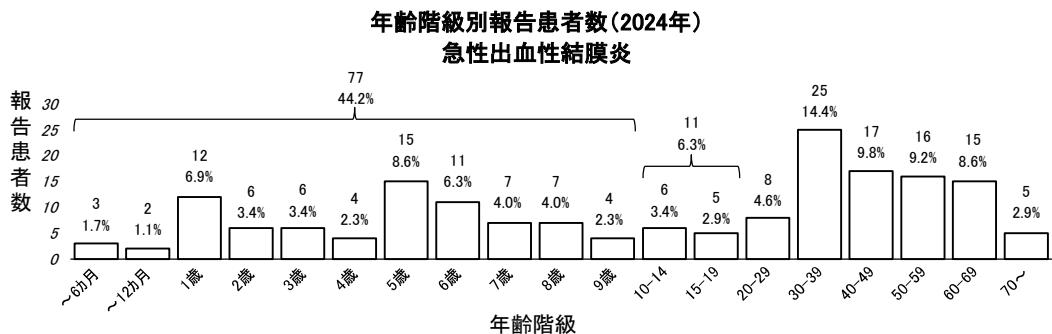


図 II-13-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：急性出血性結膜炎)

2) 流行性角結膜炎

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は1,498人であった。定点当たり報告患者総数36.54は前年(24.78)と比較して増加した。定点当たり報告数は、2月から3月中旬にかけて低い水準で推移していたが、3月下旬から増加し、第27週(7/1-7)に最大値である1.52を観察した。その後、10月にかけて減少したもの、12月以降は再び増加に転じ、定点当たり報告数0.80～1.00のやや高い水準で推移した。年齢階級別では、全ての階級で報告があり、10歳未満、30歳代、40歳代の順に多かった。

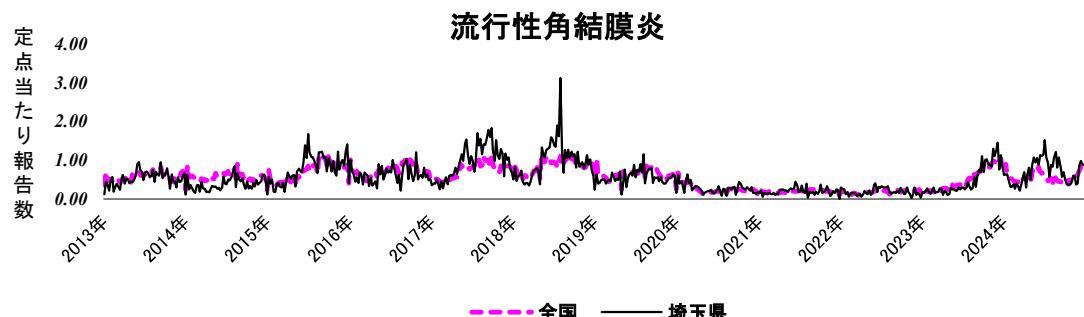


図 II-14-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：流行性角結膜炎)

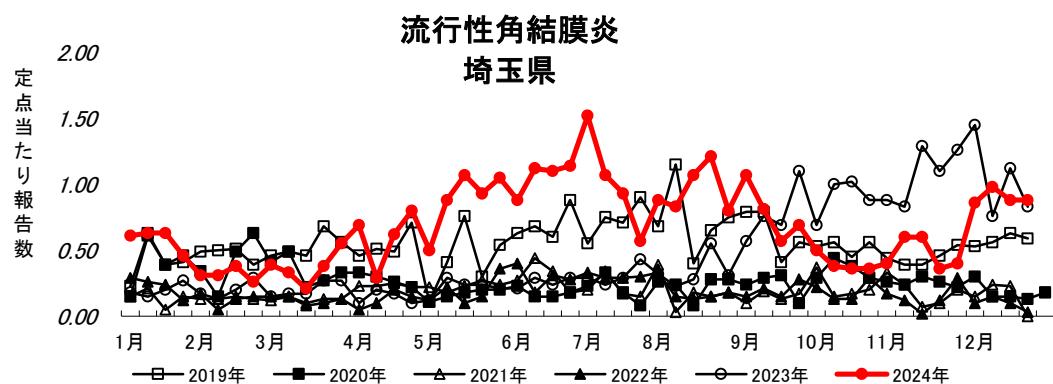


図 II-14-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：流行性角結膜炎)

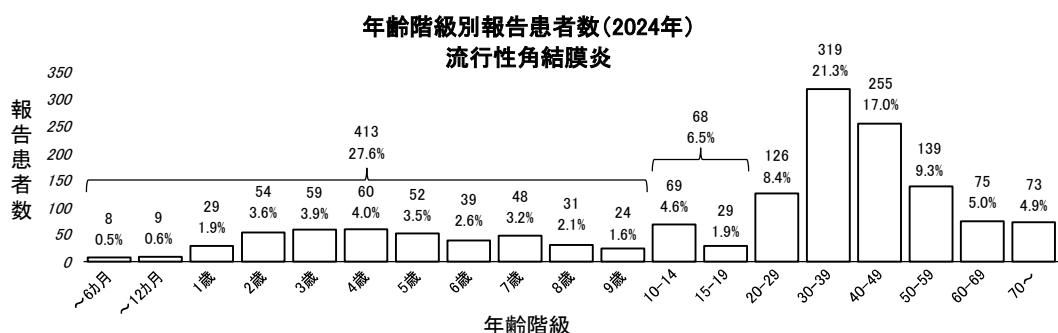


図 II-14-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：流行性角結膜炎)